

平成27年10月27日に総務生活委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

## ● 第2次総社市総合計画について ●

### ～内容～

平成28年度から平成37年度までの10年間の市の指針となる「第2次総社市総合計画」の策定について、その概要版及び全体版の案を調査するもの。

### ～質疑～

**問：今後、地方交付税が減少する。計画を実現する費用と今後の財政とのバランスはどうなっていくのか。**

答：交付税等は年々減少してくる。総合計画については今回から平成28年度の当初予算と連動した形で予算を組んでいる。3年間の実施計画でその収支をはじき出して、それを見直していく形にしている。

**問：例えば、人口が今の想定よりずっと減った場合など、シミュレーションの中で、悪い状態のことを想定してどう対処するか検討しているか。**

答：KPIという目標数値で、5年間の目標を設定している。この目標に向かって総社市一丸となって進んでいくという意識である。今回の総合計画の中では、このKPIを設定しているところで予算の付き方が変わってくる。達成率が低ければ、予算も削減される可能性がある。そのあたりを次年度検証して、更に平成29年度予算編成に反映していきたいと考えている。

**問：赤米、登録有形文化財のJR美袋駅舎、吉備路自転車道、農村百選の三須などの記載はどうか。**

答：記載しているのは本当に主立ったところで、まだまだ総社市内には数多くの名勝地がある。各担当の部署とよく協議しながら、計画の中に取り入れていきたい。

**問：「普通交付税の加算額8億円の減少」と書かれている。一方、総合計画の事業内容で、いろんな事業をするという。整合性はどの程度とれているのか。**

答：交付税が減ってくる中で、既存の事業を見直して財源を確保していくという趣旨で書いている。財源がなければ事業はできない。重点的と位置付けたものについては、優先順位もつけながら予算を積極的につけて推進していくものである。

**問：井原線についての記載がないのはどうか。また、岡山県立大学周辺の整備の方向性はどうか。**

答：井原線については、沿線都市の協議会にも入っているなので、追記する。また、県立大学周辺の農地を変えるのは非常に難しいところだ。前向きに変えるという方向で取り組んでいきたい。

**問：コンパクトシティの実現について、これまでの市長答弁等と整合性に欠けるがどうか。**

答：市長としては、総社市の中でコンパクトシティは目指さないということかと思う。しかし、岡山県南で見たときには、やはりコンパクトシティをやっていくという意図だ。土地の利用の方針は、都市計画マスタープランでどう記述していくかが大事になる。

**問：福祉文化の先駆都市は何を根拠に指標化するのか。**

答：即答は難しい。何をもちて全国トップクラスかと言えるかについては、庁内で検討していきたい。